

9月27日 タイ・ニックネームの謎、解明！

朝、6時30分に起きるも、すぐに意識が飛んで行ってしまった。8時30分ごろ、ホームステイ先の隣にあるお寺に行き、「ワンプラッ」と呼ばれる仏教行事を見学に行った。ついたころにはすでに終わってしまっており、住民が帰っていく途中だった。神聖な儀式と思い、お寺の前でもじもじしていると、セラグループのおばちゃんが居たので入っていか聞いてみると、大丈夫とのこと。住民の皆さんはお寺に来て「タムブウン」をする。要はごはんをお家から持ってきてお坊さんにお供えするのだ。お布施という翻訳でいいのかもしれない。中には白い衣装をつけた女性が多くいた。メーシーとかマーシーと呼ばれる尼さんだ。彼女らは白い服を着ていて、滝修行をするときに着る白い着物みたいな服装をしている。「マー」「メー」が「お母さん」という意味で「シー」「チー」が「白い」という意味なので「マーシー」なのだそう。お坊さんは常駐的に宿坊に住んでいるのだが、尼さんは普段は世俗のお家に住んでいて「ワンプラッ」の日にお寺にやってきて尼さんになるそうだ。一応本殿みたいなところに祈りをしてお寺の中をすこし見て回った。

その後、コミュニティセンターに行くと、ホームステイ先のお母さんがゴムの木見学（井上、浅山は本日二度目）に行った。ゴムを集める所に着くと、ゴムの木から採れた、お茶碗型の白いゴムの塊がすでに運ばれていた。そこではゴムの重さを量ってトラックに積む作業をしていた。茶碗型のゴムは一つ200グラムほどで、ゴムはまとめてかごに入れられており、かご一杯分を量ると約50キログラムだった。つまり一かごに大体250茶碗分のゴムが入っている。そしてそのかごが12個あるので合計3000個だ！ゴムの木一本に一つの茶碗が備え付けられているので、3000本の木に切れ目を入れ、また回収したのだろう。けっこうすごい数だなあ。30人でやっても一人100個だなあ。ん～、切れ目を入れるのはしんどそうだなあ。茶碗からのゴムの回収もかごの半分くらいまで埋まってくるときついただろうなあ。トゥッケーさんと仲間の4人でゴムをトラックに積んでいた。50キログラムほどあるゴムをばんばん荷台に乗せていってすごいなあと思った。トゥッケーさんはお腹もさることながら腕力もすげえ。横でトゥッケーさんの奥さんのコーンカーイさんが朝食を食べながらゴムの重さのメモを取っていたのがラフでおもしろかった。

コミュニティセンターに一旦帰り、fernさんのお家の庭を撮りに出かけた。天気が曇っていてあまり良い写真は撮れなかった。その後周辺をサイクリングしようとするすると雨が降ってきたので、fernさんのおばあちゃん家で雨宿りをさせてもらった。赤ちゃんのユーインがいてかわいかった。

センターでご飯を食べ、家に帰った。あらためて有田さんの論文を読んでみた。情報量でこれに勝ることはできないし勝るために来たわけでもないけど、やっぱり調べてるなあと思った。そんなことを考えているとお母さんがやってきて玉ねぎ剥きと唐辛子のへたとりにかり出された。ここに来てからはこうゆう家での作業をけっこうしているなあ。そのあとはブンさん一家とお母さんとトゥッケーさん夫婦でシーフードレストランに行った。カーオパッガイというチャーハンがやはり定番でおいしかった。井上はプーパッポンカリーというカニのカレー煮みたいなのを

ひたすらに食べていた。ブンさんたちは殻ごと食べていた……。無理だわー。ところで、タイの人はみんなニックネームを持っているが、誰が決めるのかを聞くと、それは親が決めるそうだ。ブンさんは色が黒かったので「銃」を意味する「ブン」、トゥッケーさんはハイハイの様子がヤモリみたいだったのでヤモリを意味する「トゥッケー」が名づけられたそうだ。なかなかニックネームのつけ方が面白い。このシーフードレストランは池のそばに作られており釣りもできる。食事をしているとちょうど釣り人が魚を釣り上げているのが見えた。本当に釣れるんだ！っとすこしテンションが上がった。食事中はずっと井上の身の上話を聞いて、いろんな人生があるものだと思いながら聞いていた。やっぱ「日本人」てまとめられそうにないなあ。

家に帰ってからはまたコミュニティセンターに行ってパソコン作業をした。ジェーさんと撮った写真をプリンタでA4サイズの紙に印刷して家に帰った。せっかく仲良くなってきたところで帰る……。うーん。もっと早く仲良くなれるようにしたらよかったのかなあ。なんだかなあ。